

学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

平成 30 年度 グリーンプラン推進校 報告書



特定非営利活動法人えどがわエコセンター

環境教育・人材育成委員会

1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

条 件

- 対象は江戸川区内の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 2年連続の参加はできません。
- 中間報告・最終報告の提出や報告会への参加をお願いします。

2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政やNPO/NGOと連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・「みどりのカーテン」モニター講習会・交流会など
- 資源循環・・・生ごみリサイクル講習会、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・水辺環境調査、東なぎさクリーン作戦など
- 仲間づくり・・・すくすくスクール放課後環境教育、小中学校出前授業
おきがる環境講座、「エコカンパニーえどがわ」の推進など

3. 平成 30 年度グリーンプラン推進校

小学校 (9校)

東小松川小学校 第七葛西小学校 下鎌田小学校 一之江第二小学校 本一色小学校
篠崎第二小学校 篠崎第五小学校 南篠崎小学校 小岩小学校

中学校 (2校)

小松川第二中学校 小岩第五中学校

目 次

報 告

東小松川小学校	p. 2
第七葛西小学校	p. 4
下鎌田小学校	p. 6
一之江第二小学校	p. 8
本一色小学校	p. 10
篠崎第二小学校	p. 12
篠崎第五小学校	p. 14
南篠崎小学校	p. 16
小岩小学校	p. 20
小松川第二中学校	p. 22
小岩第五中学校	p. 24

学校名	東小松川小学校	対象学年と人数	1年から4年 環境委員会
活動名	ひがこま eco プラン		
指導者	学内指導者：1～4年担任 環境委員会担当教諭 学外支援者：えどがわエコセンター 葛西東渚鳥類園友の会森林インストラクター2名		

目標

- 「もったいない」…今ある資源を大切に育てる。
- 「やってみたい」…自然や生き物に関心を持ち、調べることにより、自然環境についての学習を深める。
- 「つづけたい」…栽培活動を通して、緑化や環境保全に対する意識を高める。

成果

- 環境委員会による防災井戸の水の活用、低学年による雨水タンクを利用した植物への水やりを通して、今ある資源に目を向け、有効活用しようとする意識を高めることができた。
- グリーンカーテンが、日光を遮り、室温の上昇を抑える効果があることに気付いた。
- 身近な自然（親水公園や校庭にある植物や生き物）について出前授業で詳しく教えていただいたことを通して、多くの気づきが生まれ、関心を高めることができた。

感想・課題等

- ゲストティーチャーから、親水公園や校庭にある木や昆虫について現物を見ながら特徴を教えていただいたことにより、より身近な自然に興味をもつことができた。また、季節ごとに観察をし、授業をしていただいたことから、自然と季節とのつながりや木や葉が自分たちの生活の中で役立つものになっていることなど学ぶことができた。ゲストティーチャーからより専門的な知識を得ることができた。
- 防災井戸水の活用方法として植物の水やりを考え、定期的に環境委員会が防災井戸からタンクに水をくみ取る活動を行った。その水を1年生から3年生が自分で育てている植物に活用した。また、雨水タンクを設置し雨水を有効活用した。これらの活動から、今ある水を大切にしながら自然に生かしていくことを体験することができた。
- ヘチマやツルレイシ、ヒョウタンが成長する様子を観察しながらグリーンカーテンができていく様子を楽しみながら育てた。太陽の光を植物が遮断することで、部屋が涼しくなることに気付いたり、葉と葉の間からそよぐ風の心地よさを感じたりする児童が見られ、グリーンカーテンの良さに気付いた。

活動報告（活動写真）

グリーンカーテン



えどがわエコセンターの出前授業



雨水タンク



防災井戸

学校名	第七葛西小学校	対象学年と人数	第5学年 91名
活動名	七小田んぼで米作り		
指導者	学内指導者：池田義則・岩崎佑美・森田拓磨（事前・体験・事後指導） 学外支援者：石倉克彦（米作り指導）		

目標

お米作りを通して生じる問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方についての考えを広げたり、深めたりできる児童の育成

成果

- 学校図書館やインターネットの資料を活用してしっかりと事前学習を行ったことで、課題意識をもって体験することができた。体験から生まれた課題について事後学習で整理することで確かな学びを得ることができた。
- 多くの外部支援者の協力を得るで、児童が経験を通して学びを深めることができた。
- 1年間を通して学習を進めることで、一人一人が主体的に課題をもち、探究学習につながるすることができた。
- 昔の道具を使って作業したことで、先人の努力や苦勞を、身をもって経験し、気付くことができた。
- お米を作る苦勞を知ったことで、給食の残菜が少なくなるなど、経験を通しての学びが実生活に生かされ、自己の生き方についても考えることができた。
- お米作りでの経験を、道徳科の学習を通して、補充・深化・統合することで児童の道徳性を育むことができた。

感想・課題等

- 総合的な時間の時数の削減に伴い、今までのような活動が時間的に厳しくなった。今後は、年間指導計画の見直しが必要である。
- 専門的な知識を要する活動が多く、人材の確保が難しい。
- 保護者への協力が必要となり、負担が大きい。また、クラスによってはお手伝いをしていただける保護者があまり集まらないなど差が生じる。

活動報告（活動写真）

【4月】

○オリエンテーション ○田んぼの観察

【5月】

○田起こし・代掻き・あぜぬり



【6月】

○苗の観察 ○ゲストティーチャーによる特別授業

【7月】

○稲の観察 ○草取り



【9月】

○稲刈り



【11月】

○昔の道具を使つての脱穀作業



【12月】

○縄ない



学びのプロセス

つかむ ↓ 調べる ↓ 体験 ↓ 振り返り ↓ まとめる

事前学習

○つかむ

活動内容について学習課題をもつ

○調べる

学習課題について学校図書館を活用して調べる。

体験

○体験

学校図書館を使って調べたことを、経験を通して確認する。

事後学習

○振り返り

体験を通して得た新たな疑問についてさらに調べ解決する。

○まとめ

体験しての感想、調べて分かったことを記録カードに書き、学習をまとめる。

※これら一連のプロセスを体験ごとに行い、深い学びへとつなげる

教室前「お米に関する本コーナー」



お米に関する本を集め、いつでも児童が手に取り読めるようにしている

2月

研究発表会

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動報告

学校名	下鎌田小学校	対象学年と人数	1・2年 91名中心
活動名	下鎌田小学校にミニ農園を作ろう		
指導者	学内指導者：瀧口正浩（副校長）・間島秀之（教諭）・校内主事 学外支援者：下鎌田小学校 PTA、下鎌田小学校 学校応援団「安全な土作り隊」 （役割分担）ピオトープ改修（業者）、農園づくり（教職員・保護者）・栽培活動（児童）		

目標

- 下鎌田小学校の花壇を整備し、花を植えることで、校内外の人々に憩いと潤いを与える。
- 下鎌田小学校で使用されていなかったピオトープ跡を再利用し、ミニ農園を作って農作物を栽培し、できた作物を収穫する。
- 収穫した作物を活用し、自然の恵みに感謝しながら、会食など活用する機会をもつ。

成果

- 下鎌田小学校の花壇を整備することで、校内に彩を添え、美しい学校へと変貌させることができた。
- 下鎌田小学校においてここ数年間有効に活用がなされていなかったピオトープ跡が、学校と保護者が協力してミニ農園へと蘇らせることができた。
- ミニ農園で栽培した農作物を、学校の教育活動（生活科）の一環として収穫することで、「命」についての学習や「食育」教育に結び付けることができた。
- 収穫した作物を活用し、一部を児童の給食に提供したり、PTA 活動の「給食を作ろう会」活動に使用したり、PTA 行事において来校された来賓や地域に方々に提供したりすることなどにおいて、学校と保護者が一体となって、教育活動の幅を広げることができた。

感想・課題等

- ピオトープの撤去、同跡地の改修工事という、文字通り一からのスタートとなった今年度の活動であった。実際の進捗や関係各面はもちろん、教育課程との調整など、過程は困難なものも予想されたが、保護者の方々が積極的に意見を出しながら教職員と共に春先から汗を流し、児童を中心に栽培活動、そして今回は江戸川区グリーンプラン推進にも支えていただくという文字どおり、全員で協力しながらこの1年間の活動を終了することができた。
- 地域農園が閉園になるということで、栽培・収穫活動ができないのではないかとがっかりしていた児童や関係者であったが、全員の協力で思いの外スムーズに活動が進められたといえる。地域農園の10分の1以下のミニ農園ではあるが、全員で作り上げた「下鎌田農園」には教員や保護者、そしてもちろん児童の誇りが込められているといえる。
- 一方で、担当者（副校長）がピオトープ跡の改修工事と今回のグリーンプランとの具体的計画調整を昨年度（平成29年度）のうちなど早めに行っていたら、栽培対象となる植物の種類や幅もより広がると同時に、児童の活動の回数や幅もより広がったのではないかとという点が反省点、そして今後の課題である。既にピオトープ跡にミニ農園が完成している状態からスタートできる来年度（平成31年度）は、今年度の反省点を生かし課題を鑑みながら、さらなる活動の充実に結び付けたいと考える。

活動報告（活動写真）

- 昨年度（平成29年度）を以て、これまで本校児童が農作物の栽培・収穫体験をさせていただいていた地域の農園が閉園することになり、今年度（平成30年度）からは児童の体験活動の場が制限されることになったことを危惧していた。そこで今年度はかねてからの懸案事項でもあった本校ビオトープ跡を利用し、江戸川区グリーンプランを活用しながらこれまでどおりに近い体験活動を行う方法を模索してきた。
- ビオトープの改修工事は江戸川区に依頼し、専門業者によって外枠を完成していただいた後から、今年度のグリーンプランがスタートした。給食の廃材を利用した土作りや保護者と教職員が一体となった土交ぜ作業、種蒔きや苗植えなど児童の手で行った教育活動を経て、秋にはいくつかの農作物を収穫することができた。もちろんあくまでもミニ農園であり、その規模においてこれまでの地域農園には及ばないものの、グリーンプランを活用しながらの手作り農園において、大豆や里芋、サツマイモの栽培・収穫等、これまでに近い効果的な体験活動に結び付けることができた。
- 保護者の方々には収穫した作物を利用し、学校栄養士との連携による給食づくり体験（「給食を作ろう会」）、有機大豆を使った味噌作りなど、「食と農」を通じた活動で学校教育をサポートされ、子供たちにも広く「食育」体験活動の場を提供していただいていた。一から始まった「校内農園」整備からの活動であったが、縮小規模の中においても充実した体験学習や観察の場を設定することができた。



① 保護者の方々と共に「下鎌田農園」開き



③秋のサツマイモ収穫



② 授業を利用した大豆の種蒔き



④秋の里芋収穫

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動報告

学校名	一之江第二小学校	対象学年と人数	全校児童 842 名
活動名	一之江二小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：環境教育担当 眞野優子 傅野昌彦 他教職員全員 学外支援者：公益財団法人日本環境協会 高田直子 吉野榮一 岡本正義 善財裕美 西寿子 東京ガス(株)学校教育情報センター 4 名		

目標

「みどりをふやす二小の子 むだにしない二小の子 リサイクルする二小の子」

- 植栽活動を通して緑化や美化の推進に対する意識を高める。
- ごみ問題や地球温暖化などの環境問題に興味を持ち、改善していこうとする意識を高める。
- リサイクル活動などを通して自分に何ができるか考え、環境保全のために行動していく態度を育てる。

成果

- ① 環境集会（5月31日）

環境委員会による空き缶リサイクルについての発表と担当教員より「グリーンプラン推進校」についての説明、合言葉の提案。

 - ・リサイクルの仕組みについて学ぶとともに、こどもエコクラブの会員としての意識が持てた。
- ② 環境教育プログラム

出前授業 4 年「あなたはどうやってごみをへらしますか？」（6月26日、28日）
 出前授業 6 年「エコクッキング」（7月2日、3日）

 - ・地球温暖化やごみ問題、身近なところからできる省エネ・省資源等について学ぶことができた。
- ③ 50 周年記念行事に向けた植栽活動（2 学期）
 - ・5 年生や環境委員会は毎年校内や地域の花壇に植栽活動を行っているが、今年度は50周年行事の一環として 1～3 年生が一人一鉢の植栽活動に取り組んだ。11 月の式典にはひまわりやコスモスの花を飾ることができた。活動を通し、植物に興味を持ち、草花を大切にしようという意識が高まった。
- ④ 打ち水活動（2 学期初め 2 週間）
 - ・環境委員会が、昼休みの校庭遊びを涼しくするために給食準備時間に雨水タンクや防災井戸の水を使ってじょうろで校庭に水まきを実施。今までアルミ缶回収と花壇への水やりが主な仕事だったが、5 月の環境集会や 9 月の打ち水活動を通して環境問題への意識が広がり、活動が主体的になった。

感想・課題等

- 当初、夏の校内の暑さの軽減にグリーンカーテンの取り組みも考えていたが、適当な場所が見つからず時機を逸してしまった。プランターの使用なども検討し、来年度以降ぜひ実施してみたい。
- 環境をよくする取り組みについては、知識としては頭に入っているが、なかなか実践にならない実態がある。今後も出前授業や体験的な学習の機会を積極的に作り、実践力を身に付けた児童に育てていきたい。
- 植物の生育には自然条件が大きく影響する。今回の植栽活動でも学校行事などの関係で適当な時期に適切な世話ができないことがあり、教職員のみで取り組んでいくことの難しさを感じた。学校応援団の方など外部の支援もお願いできるとよいと思った。

活動報告（活動写真）

環境集会



グリーンプランの
合言葉の掲示

環境委員会による
空き缶リサイクル
についての発表



5年ひだまり公園花植え活動



いつも遊ぶ公
園に花を植え
ました。

理科委員会が
水やりもして
います。



4年「あなたはどうやってごみをへらしますか？」



いろいろな資料があつて
わかりやすかったです。



打ち水活動



防災井戸や
雨水タンク
の水を利用
しました。

6年「エコクッキング」

食を通して
できる省エ
ネを学びま
した。



50周年に向けた植栽活動

種まきから始めました。



《3年ひまわり》



《2年コスモス》

11月6日の開
校50周年記
念式典の日
には美しく学
校を飾りまし
た。

学校名	本一色小学校	対象学年と人数	4年 57名 5年 73名
活動名	地球の環境問題・3Rについて		
指導者	学内指導者：4年・5年担任（指導・児童管理） 学外支援者：えどがわエコセンター（講師）		

目標

1. 地球温暖化防止のために、自分たちの日常や学校生活の中で何ができるのか考える力を育成する。
2. 日常生活での取組みが環境に対して大きな影響を与えることに関心をもつ。
3. ごみを減らすことにより、資源を大切にすることを意識を高める。

成果

- えどがわエコセンターの方々の協力を得て、環境問題に触れて地球温暖化防止や資源を大事にする意識をもつことができた。
- 環境プログラム実施後、教室の電気をこまめに消す、給食の残菜が減る等、子供たちの環境問題に対する意識の変化が見られた。
 - ・環境プログラム（えどがわエコセンター）
 - 4年生【あなたはどうやってごみを減らしますか？】
 - 秤に1kgのごみをのせて、どれくらいの量なのか実感する。
 - 江戸川区の分別の仕方でごみを分ける。（環境マークを見て、分別の可否を検証）
 - 牛乳パックリサイクルの工程品や再生品を触り、リサイクルについて理解する。
 - リデュースの方法として、風呂敷包みを体験する。
 - 5年生【地球の環境問題って何だろう？】
 - 地球温暖化とは何か、地球温暖化が進むとどうなるのか。
 - 温室効果ガスはなぜ増えるのかを学ぶ。
 - 地球温暖化防止の取組み。
 - 1日に消費しているエネルギーの量を重さで体験する。

感想・課題等

- 各学年の発達段階に応じた環境学習プログラムを実施し、体験的に取り組むことによって環境学習の重要性を子供たちに再認識させることができた。子供たちが主体的に学び、環境について課題意識をもちながら活動することができた。
- 環境プログラム実施後、本やインターネットで調べる活動を行った際、意欲的に活動する姿を見ることができた。また、節電や3Rにも取り組むことができた。今後も環境問題に対する子供たちの意識を高め、継続して活動ができるよう指導していく。

活動報告（活動写真）

4年 【あなたはどうやってごみを減らしますか？】



1kgのごみの量を実感する活動。



リデュース・リユース出来るもの調べ

5年 【地球の環境問題って何だろう？】



地球温暖化について学ぶ



エネルギーの重さを体感する

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動報告

学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	全校 347名
活動名	環境学習アーカイブ		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：用務主事、PTA、えどがわエコセンター		

目標

- ・学校全体の緑化事業や環境学習の様子について、継続的に記録を行う。
- ・植物栽培や環境学習の様子の記録を行い、児童や教職員の意識や意欲を向上させる。
- ・学校ホームページを通じて、本校の環境学習の様子を広く、一般の方々にも周知していく。

成果

- 今年度は、理科栽培委員会だけでなく、全校児童が子どもエコクラブに入会し、各学年の植物の栽培や動物の世話、ごみの分別などを通じて、自然と触れ合い、自分たちで自然を守っていく意識や命の尊さがもてるようになってきた。
- 6年生が、えどがわエコセンターからご紹介を受けた、東京ガス出前授業「燃料電池って何だろう」を受講し、環境をよくする燃料電池について実験を通して知ることができた。その様子が、本校の環境学習と共に、江戸川区民ニュース8月1日号「みんなで目指そう！日本一のエコタウン ～第2次エコタウンえどがわ推進計画～」で紹介された。
- 1、2年生が、えどがわエコセンター主催の出前授業、環境教育プログラム「身近な生きものにふれてみよう、生きものさがし」を受講し、学校近くの「はなの広場」に出かけ、身の回りにはたくさんの生きものがあることを知った。
- 各学年の植物栽培の様子や環境学習の様子について、学校ホームページを通じて、広く周知することができた。

感想・課題等

- 今年度は、学校全体で子どもエコクラブに参加でき、児童が自分達でできるエコ活動を考えることができる良い機会となった。
- えどがわエコセンターの環境教育プログラムを出前授業にて1、2、6年生で実施することにより、児童が身近な自然や身の回りの環境について興味関心を高めながら、環境学習を行うことができた。今後の理科や生活科における指導にも役立てていける有効なプログラムであった。
- 学校ホームページにて、学校の自然や環境教育を紹介していくことで、教職員の環境学習に対する意識が向上した。今後は、より体系的な学びを深めるために、出前授業の継続的な活用を次年度年間指導計画に取り入れていきたい。

活動報告（活動写真）



7月17日（木）6年生 東京ガス出前授業「燃料電池って何だろう」



美化委員会によるリサイクル活動（資源ごみの回収、エコキャップ集め）



9月25日（火）1、2年生「生きものさがし」

- （7／17（木））6年生は、東京ガス出前授業「燃料電池って何だろう」を受講し、環境をよくする燃料電池について実験を通して知ることができました。
 <江戸川区民ニュース8月1日号「みんなで目指そう！日本一のエコタウン ～第2次エコタウンえどがわ推進計画～」で紹介されました。>
- （9／25（火））1、2年生が上篠崎はなの広場で虫捕りをしました。こども未来館とエコセンターから招いたゲストティーチャーより虫捕りのコツを聞いて、楽しく捕まえることができました。

学校名	篠崎第五小学校	対象学年と人数	全学年 336名
活動名	しの五小グリーン・エコプラン		
指導者	校内指導者：清水将大（学校応援団担当）、瀧澤三起子・中山凌輔（4年担任）他 学外支援者：学校応援団（学校農園活動）、山崎進（農園アドバイザー） 重杉浩（ヤゴ観察）		

目標

- 学校農園での活動・ヤゴ救出作戦等をとおして、自然や環境に関心をもち、生命尊重や自然愛護、地球環境を大切にできる態度及び、様々な活動を支えてくださる方々に感謝する態度を育てる。
- グリーンカーテン・リサイクル活動・井戸水や雨水の活用などを通して、環境保全やリサイクルに対する意識を高める。

成果

- 農園の筍堀、田おこし、苗植えから、観察学習、下草とり、間引き、収穫、次年度に向けての土づくり等、農園に1年とおしてかかわることで、自然の素晴らしさ、植物からの恩恵そして、多くの方々に世話になっているからこそ、観察や収穫ができることについて、学ぶことができた。ヤゴについては、専門家を招きヤゴの生態を含め学習し、教室で羽化の様子を実際に観察することができ、よい体験ができた。
- 3Rについて、4年生が環境委員会とともに校内に発信し、全校に広めることで、3Rについて意識した活動が広がった。雨水や井戸水を使った、植物等への水やりにも節水の一環として積極的に取り組めた。
- ツルレイシを育てることで、理科の学習とともに、グリーンカーテンによる涼の学習にも役立った。

感想・課題等

感想

- 筍堀、田んぼの学習、畑を使った学習等、本校ならではの体験活動であり、保護者からの評判もよい。
- 学校応援団の方の協力がよく、児童の体験学習、教科学習に非常に効果があがっている。

課題

- 農園はじめ、各エコ関係の施設には、安全上児童に自由に行き来させることができない場所があるため、観察や実験の時間設定をすることが必要となる。下草刈りや水やり、肥料の補充等も経験させたいが、そこは学校応援団、主事、担当教員等で補うしかない。
- 作物の生育状況と、天候に左右されることが多く、ゲストティーチャーや保護者を交えての学習の日程調整をスムーズに行うことが課題である。

活動報告（活動写真）

- ゴーヤによるグリーンカーテン（4年）：室温を下げる効果と、理科の学習を兼ねています。



グリーンカーテンで覆われる教室は、1階ということもありましたが、空調機の設定温度が他に比べて高かったことが分かりました。

- たけのこ掘り（6年）：竹林があります。たけのこの皮を使って紙漉きを行い、卒業証書を作ります。



- ヤゴ救出（4年）：プールからヤゴを救出します。生き物博士をお呼びして、生き物について学習しました。学習した内容はグループごとに発表し合いました。かえったトンボは、窓から逃がしました。



- 田んぼの学習（5年）：約50m²ある田んぼで、稲を育て、収穫し持って帰りました。



井戸水による給水でした。下草狩り、間引き、水量調整、水質管理等、農園アドバイザーの方が細やかな世話と指導をしてくださいました。

学校名	南篠崎小学校	対象学年と人数	3年生（86名）
活動名	地球のかんきょうにやさしい生活を学ぼう		
指導者	学内指導者：前澤香織 亀田昌浩 塩塚由美子 学外支援者：NPO 法人えどがわエコセンター イノシシ倶楽部 (役割分担)		

目標

- 環境にやさしいこと、やさしくないことを学ぶ。
- 日常生活の中で、環境に対してできることを考える。

成果

- DVD 視聴では、「エコガイド」という地球の環境を守るヒーローが登場し、3年生の子供たちにとっては楽しくわかりやすい内容だった。ストーリーを通して、日常生活の様々な場面における環境にやさしいことに気づくことができた。
- ecoカプセルの中に入っているパズルを完成させて出来上がった絵や、ポスターの間違え探しから、環境にやさしいことを考えることができた。
- 子供達は、ecoについて、エコバックを使う、ペットボトルのリサイクルなど何となく知っていたが、ペットボトルの正しいリサイクルの仕方や、ソーラーパネルやエコカーなどがあることなど、新しく知ったことも多く学びが深まった。学んだことを実生活に生かしていきたいという意識も高まり、学校生活での紙のリサイクルにも今まで以上に気をつける姿が見られるようになった。

感想・課題等

- リサイクルして出来たいろいろな製品（ポリ袋、ガムテープ、ネクタイ、白衣など）を実際に見せていただき、形が変わって生まれ変わり、日常生活に役立っている物がたくさんあることに子供達は気づき驚いていた。
- 保護者にも広く知っていただくために、学校公開週間中に授業を設定した。平日のため、保護者の参観は土曜日よりも少なめではあったが、保護者の方々も興味をもって参観してくださっていた。また、近隣の保育園の子供達もちょうど来校中で少し参観に立ち寄った。環境学習について、3年生児童以外の人達にも広まることでよかった。
- 今回の学習でわかったこと、学んだことを、一人一人が日常生活において実践していくこと、続けていくことが大切だと考える。単発の授業で終わらせずに、他教科と関連付けて考え取り組んでいけるように工夫していきたい。
- 学校全体でも計画的に環境について学ぶことができるよう、どの学年で何をどこまで学習するかについて指導計画を精選していく必要がある。

学校名

南篠崎小学校

活動報告（活動写真）



学校名	南篠崎小学校	対象学年と人数	3年生（85名）
活動名	小松菜を育てよう		
指導者	学内指導者：前澤香織 亀田昌浩 塩塚由美子 学外支援者：ハッピーグリーン（本校保護者ボランティア）		

目標

○自分たちで小松菜を育てる活動を通して、小松菜を育てる農家の工夫について考える。

成果

- 社会科において、江戸川区の農業では小松菜作りがさかんなことを学んだ。小松菜を作る農家の方々の苦勞や工夫、思いについて考えた。
- 総合的な学習の時間において、ハッピーグリーンの方々にご協力いただきながら、小松菜の種をまき、小松菜作りに取り組んだ。種をまいた後、うねを黒いビニールと不織布で覆ってビニルハウスのように暖かくした場合と、黒いビニールだけ覆った場合との小松菜の育ち方の違いに気づくことができた。それぞれの地面に触れながら、地面の温度の違いに目を丸くしながら驚いていた。社会科の学習で学んだことを、総合的な学習の時間において実際に自分たちで体験してみると、生き生きとした発見をすることができた。

感想・課題

- 収穫は、3学期に行う予定である。いろいろな小松菜料理についても調べたので、自分たちで育てた小松菜を収穫して食べるのを子供達はとても楽しみにしている。
- 行事や天候により、種まきが当初の予定よりも少し遅れてしまった。
- 土の耕し、うねづくり、ビニール・不織布かけ、間引きなど、ハッピーグリーンの方々にご協力いただき、大変ありがたかった。
- 活動を継続していけるよう、活動内容や学習内容を記録する。児童、教師、ボランティアの方の役割を考え、年間の活動を計画的に位置づけ、より効果的な学習をしていけるようにする。

学校名 南篠崎小学校

活動報告（活動写真）



えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動報告

学校名	小岩小学校	対象学年と人数	第1・2学年 115名
活動名	どんぐり拾いをしよう		
指導者	学内指導者：2学年担任（島田雅子、田代里恵）1学年担任（石橋けやき、石井直樹） 学外支援者：えどがわエコセンター 吉野早苗さん 小林千加子さん 篠崎公園までの交通安全見守りとして保護者12名 （役割分担）司会：本校教員 資料提供及び支援：えどがわエコセンター支援者		

目標

秋の公園で、草花、樹木などの様子を観察することを通して、季節の変化や自然の不思議さに気づき、自分たちの生活を楽しんだりすることができるようにする。

成果

- えどがわエコセンター環境学習出前授業を通して、以下のことを知ることができた。
 - ・どんぐりの種類
 - ・マテバシヤクヌギなどのどんぐりの実がなる木について
 - ・どんぐりやまつぼっくりの形
 - ・どんぐりを餌にしている動物について
 - ・人間はその昔食えることができたこと
- 拾ったどんぐりを活用して、自分たちの生活を楽しむおもちゃ（的あて、マラカス、迷路等）をつくることができた。

感想・課題等

【感想】

- 昨年度までも同様に「どんぐり拾い」を実施していたが、どんぐりについて詳しい教員はいなかった。えどがわエコセンターの支援者にどんぐりについて専門的な話をしていただいたことにより、児童は自然に関心をもつことができ、より意欲的にどんぐりを拾うことができた。
- どんぐりの種類が掲載している図鑑を用意していただいたことにより、児童が拾ったどんぐりがどの種類なのか調べることができた。

【課題】

- 台風通過後にどんぐり拾いを実施した。台風の暴風により大量のどんぐりが公園内に落ちたことにより、公園内清掃が入り、どんぐりの収穫量が例年より少なかった。どんぐりが地面に落ちている量は、直前に公園内を視察しないとわからない。
- 次年度はどんぐりを活用したおもちゃづくりについて、えどがわエコセンターより支援いただきたい。

活動報告（活動写真）

えどがわエコセンターの指導者とあいさつ



どんぐり
ひろい
スタート

「先生、
どんぐり
見つけた
よ。」

えどがわエコセンターより資料の提供



拾ったどんぐりを調べるための図鑑も用意していただきました。



えどがわエコセンター指導者よりどんぐりについてお話していただきました。



ひろったどんぐりでの的あて、マラカスなどをつくりました。



えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動報告

学校名	小松川第二中学校	対象学年と人数	全校生徒 484 名
活動名	たかがキャップ、されどキャップ ～全校生徒とキャップマンの環境教育活動～		
指導者	学内指導者：生徒会担当（鶴岡友樹 藤井早苗 山田陽子） 学外支援者：進栄化成株式会社 塙 秀幸様 (役割分担) 出前授業		

目標

- キャップ回収運動、アルミ缶回収運動の推進を行う
- 回収運動を通して、さらなるボランティア精神やリサイクルに対する意識を高める

成果

- 生徒会メンバーやキャップマンによる全校生徒への呼びかけを行うことができた
- 今年度は、73.6キロのキャップ回収を行い、寄付することができた
- キャップ買い取り業者の進栄化成株式会社の方に、出前授業を行っていただき、ボトルキャップ事業について改めて理解を深めることができた

感想・課題等

本校では毎年、定期的にアルミ缶回収やキャップ回収、書き損じはがき回収などのリサイクル活動を行っている。回収運動だけではなく、どのようにリサイクルされ、ワクチンや他の製品などになっていくのかを生徒が学ぶ機会を設けたいと考えた。

ボトルキャップ事業に携わっている進栄化成株式会社に出前授業を依頼することができた。出前授業は11月22日(木)の放課後に実施し、50名の生徒が参加を希望した。自宅にある身近な製品がキャップを原材料として再生され販売されているということも知り、生徒は関心を持っている様子だった。また、キャップの売上金でワクチンを購入し、途上国の子供達を救っているということも改めてうかがうことができた。キャップ860個(約2キロ)で一人分のポリオワクチンが買えるということである。たかがキャップ、されどキャップ、キャップが子供の命を救う大きな試みになっていることを、今後の活動でも、生徒会を通して全校生徒に発信していきたい。また、このように小さなボランティア精神が環境活動につながるので、キャップ回収だけでなく様々な活動を継続していきたい。

活動報告（活動写真）



朝の回収運動の様子



73. 6キロのキャップ



出前授業の様子（講師：塙様）



キャップマンによる実験



環境活動大使のアルミマンとキャップマン

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動報告

学校名	小岩第五中学校	対象学年と人数	全学年 319名
活動名	ボランティア活動		
指導者	学内指導者：小林 紀榮 学外支援者：小宮 昌弘（学校応援団・農園部） （役割分担）		

目標

- 校内・外の美化活動や草木の育成と観察を行うことで、環境に対する意識を高める。
- 学校・家庭での3Rの取り組み（校内バザーのリユース等）を行い、意識を高める。
- 学校農園を活用して、植物を育て収穫の喜びを味わう。

成果

- 学校外に張り出した桜の老木を、安全面・環境美化の面から剪定をした。剪定するばかりではなく、昨年度は桜の植樹を行った。本年度も生徒の心を育成するために、桜の植樹を行う。
- 教室内の3R運動で紙ごみ量が減少させることができた。1階特別支援学級外にゴーヤを使った「緑のカーテン」を作った。夏場のエアコン使用量を抑えることができた。家庭内にあるリユースできるものをPTAが呼びかけることで集め、バザーで販売することができた。
- 学校農園で育てた野菜を、給食献立に使用し「地消地産」を実践することができた。

感想・課題等

- 教室内の3R活動を、家庭でも実践している生徒が増えてきた。
- 放課後や夏季休業中の植物の水やりについて、生徒間で話し合いを行い、当番を決めて取り組んでいた。生徒の自主的な活動が、進められてよかったと感じた。
また、学校農園での活動も多く生徒が参加し、地域の方々との触れ合いが持てた。生徒にとって初めての体験も多く大変だったと思うが、地域の方々から教えてもらったり、生徒同士で声をかけながらの作業は楽しそうであった。
- 収穫した野菜を給食献立に使用するときは、昼の放送で紹介し農園のボランティアに参加できなかった生徒たちの関心も高めることができた。
- 全校生徒を対象としたボランティア活動を行っているが、回数が少なく全員を参加させることが難しかった。時期や回数などを、工夫していくことが課題である。
しかし、区民祭りや自転車盗難3ゼロ作戦などにも参加しているが、週休日のボランティア活動の回数を増やすと教員への負担が大きくなるので、バランスを考えることも課題である。

活動報告（活動写真）





発行： 特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>
